



ごあいさつ

皆様には、平素より私ども「熊谷商工信用組合(くましん)」に格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

私は、令和6年6月21日に開催されました第72期通常総代会にて吉田前理事長の後任として理事長に就任致しました石川和彦でございます。甚だ微力ではございますが、地域の発展、お客様の利便性向上のため鋭意努力して参る所存でございます。引続き、皆様方のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

当組合は、創業以来70年余に亘り、埼玉県北地域のコミュニティバンクとして地域の皆様と共に歩み、今日の経営基盤を築いて参りました。より多くの皆様に当組合の経営内容や営業実績等をご覧頂き、「くましん」をより一層ご理解頂けるよう、今年度もディスクロージャー誌を作成致しました。

令和5年度のが国経済は、コロナ禍の3年間を乗り越え、改善しつつあり30年ぶりとなる高水準の賃上げや企業の高い投資意欲など、経済には前向きな動きが見られ、デフレから脱却し、経済の新たなステージに移行しつつあります。しかしながら、他方で賃金上昇は輸入価格の上昇を起点とする物価上昇に追い付いていないのが現状であり、個人消費や設備投資は、依然として力強さを欠いている状況です。このような状況下にあっても、当組合は「地域への貢献」「お客様第一主義」を経営理念とし、積極的に地域事業者の支援に取り組んで参ります。

令和5年度決算につきましては、ゼロゼロ融資の利子補給終了により繰り上げ返済をした企業も多く、貸出金残高は2,237百万円減少となりましたが、貸出金利息収入は1,016百万円と貸出金利回りの改善が図れたことにより前期比14百万円の増加となりました。

しかしながら有価証券の評価損解消を目的として、有価証券の売却を114億円実施したことにより1,687百万円の有価証券売却損を計上。また与信費用として563百万円を積み増し、店舗の処分に関わる費用として特別損失190百万円も計上したことにより、当期純損失2,373百万円となりました。

なお、当組合は令和6年3月に全国信用協同組合連合会による資本支援を受け、財務基盤の強化を図ることができたことにより、自己資本比率は10.48%と国内基準の4%を大きく上回っています。

今後は収益力の強化を図るべく、令和6年度から5年間の第10次中期経営計画を策定いたしました。この中期経営計画では有価証券の運用収益に頼らない「本業収益だけで経費が賄える自立可能な体質に改善」をスローガンとし、全役職員が一丸となり取り組んでまいりますので、引き続きのご愛顧ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年7月

熊谷商工信用組合 理事長

石川和彦